

園里黄桜【ソノサトキザクラ】について

2001(平成13)年 長野県須坂市豊丘の海拔730m地点で発見

須坂市の東地区の山里に祀られた弁財天の参道に、明治時代に植栽された「普賢象」(フゲンゾウ)の古木の先端に出現した黄緑色の枝変わりの八重桜である。

明治時代この地域は園里村と称されていたため、仮称「園里黄桜」と命名した。

現在は、須坂市を中心として植栽され、日本のさくら名所百選に選ばれた臥竜公園や小中学校でも開花生長している。また、近隣の市町村や日本花の会結城農場でも生育されている。

開花時期は当市では、例年5月上旬で、他に類似のない八重咲きである。

2006(平成18)年、日本花の会の田中秀明主任研究員により「普賢象」の枝変わりで新品種と認定された。

明治中期以降黄花品種は、「御衣黄」(ギョイコウ)・「鬱金」(ウコン)の2品種であったが、1990(平成2)年神戸市須磨浦公園で発見された「須磨浦普賢象」(スマウラフゲンゾウ)に次ぐ、第4の黄花品種として、2006(平成18)年4月「園里黄桜」が八重咲新種として認定された。



羽生田郁雄

須坂市大字豊丘2409

電話(Fax兼)026-245-9771

園里緑龍【ソノサトリョクリュウ】について

2001(平成13)年 須坂市東地区の山里に祀られた弁財天で、明治時代に植えられた「普賢象」(フゲンゾウ)の古木の先端に現れた黄緑色の枝変わりの花を羽生田郁雄が発見し、「園里黄桜」と命名した。

昭和まで知られている黄花品種は、「御衣黄」(ギョイコウ)・「鬱金」(ウコン)の2品種しかなかったが、1990(平成2)年に神戸市須磨浦公園で発見された「須磨浦普賢象」(スマウラフゲンゾウ)に次ぐ、第4の黄花品種として、2006(平成18)年4月「園里黄桜」が八重咲新品種として認定されました。

2008(平成20)年5月元法政大学教授で理学博士の笠原基知治氏(植物遺伝学)が、園里黄桜の調査に来須した際、園里黄桜の枝変わりで、緑色の桜を発見しました。所有者の羽生田郁雄は、この桜を「園里緑龍」と名付けました。

園里緑龍は緑色の花弁に黄緑色の筋が入り、花弁数が45~60個と多く、花径は3~4cmとやや大輪の花を咲かせます。

2009(平成21)年5月公益財団法人日本花の会の田中秀明結城農場長(樹木医)が、今までに知られている黄緑色の桜とは異なる新しい品種と確認しました。

【笠原博士談】

- ①ピンク色の普賢象から黄緑色の園里黄桜への枝変わりは、めったに起こらず、突然変異によるものではないかと思われる。
- ②園里黄桜の黄色の遺伝子は、緑色の遺伝子に突然変異を起こし易い。
- ③花びらを作る過程で緑に変化すれば、その後の成長で緑の筋になる。
- ④枝の芽の時期に変異すれば、緑花の枝変わりとなる。
- ⑤今回の発見は、この理論を実証するもので、価値がある。



羽生田郁雄

長野県須坂市大字豊丘2409

電話(Fax兼)026-245-9771